

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

2025年3月15日

第31号

すくらんぶる

活動情報

- 4/6 県高校生青年交流まとめ
- 4/8 地域文化事業事務局会議
- 4/9 乳幼児部会
- 4/22 理事会
- 4/29 祭典30周年記念
「西上寛樹さん講演会」
- 5/20 理事会
- 6/6 祭典オンライン
事前交流会

長崎県子ども劇場連絡会

〈学習交流企画〉“西上寛樹さんを囲んで…”

2025年2月9日(日)

東彼杵町教育センター研修室



今年度の県連絡会学習交流企画は、〈乳幼児の部〉〈低学年の部〉〈高学年の部〉に分かれて子どもの年齢に応じた、子どもにとっての“観ること・あそぶこと”について座談会形式で実施しました。近くの人と話して、その後みんなシェアする形で西上さんに言葉を引き出してもらいながら、それぞれ日頃の思いを出し合いたくさん言葉にして話すことができました。前日からの雪で開催が心配されましたが、高学年の部を9日に延期し、会場に来られない可能性を予測してオンライン参加もできるように準備して無事に開催することができました。

◆乳幼児の部：県連乳幼児部主催 10:30～12:30

テーマ：乳幼児期(0～3歳)の“みる・あそぶ・つながる” <参加者20名>



今回は、県連乳幼児部会で「主催したい」という意見で一致し、どのような学習交流会にしたいかを部員で丁寧に話していきました。そして実際に乳幼児をもつ会員に西上さんとどんなことを話したいかを尋ねたり、西上さんと事前に出会いたいという部員の意見から、オンライン打合せもしました。その時の自己紹介の中で、初めてベビーシアターに出会い2年間演出助手をしたこと、東京で2年間小学校の心の相談員をしたことなどを話されました。子どもたちが劇を観る時、自分軸を大事にして自分を発揮させ、フル可動してほしいと思っているという持論も語られました。思ったことが言える、アートは個性そのままの自分を出せる場、素に戻れる場だと捉えている、脚本家であり演出家の西上さんとの学習交流会がとても楽しみになりました。

当日は、事前に西上さんにお伝えしていた話したいことの中から「観劇中に子どもに話しかけたり、反応をこちらから投げかけたりして観た方がいいのか」というテーマについて2～3人で話し全体で共有。参加者からは子どもの反応にまかせる、アイコンタクトで共有、年齢によっては親から声をかけるなどが出ました。西上さんからは「①子どもに寄り添う声かけ、②子どもが見逃すもったいないと大人の気持ちが先行しての声かけ、③親が自分の気持ちを共感してほしい声かけという3つのタイプがある。どれも自然とそうなるということではないか」と整理されました。その後も、「例会会場に行きたくない、入りたくない泣いたり暴れたりしたときに無理に観せることがどうなのか」「乳幼児期から鑑賞することの良い影響について聞きたい」などの投げかけがありました。大人は作品がこの子にどうかなと思いがちですが、西上さんの「舞台を観るということは“たくさんの人と一緒に観る空間にいる”ということ、”人と一緒にいられる人になる”ということ。」「そもそも子どもたちは劇を観ている空間の中で人とつながりたいと思っている」など、劇を観ている子どもや親子の様子を観察し、またいろいろな経験から子どもの目線で考える西上さんの言葉にはとても説得力がありました。また、乳幼児は安全か危険かを全身のセンサーで感じているということや、言葉が生まれる前に大事にしてきたものは安心をベースにした関係、雰囲気。だから乳幼児は、お母さんのリラックスした声(音)を聞きたがっているということ。乳幼児にとって、またその親にとっての“安心”が今、私たちの活動の中に間違いなくあるということを実感しました。

この学習交流会は少人数の座談会形式で西上さんのゆったりとした口調、自主的に話したい人が話すというスタンスで、とても和やかな話しやすい雰囲気に包まれていました。それでも最後はまとめようとしてしまう私たちに「最後はまとめないでちらかしてください」と気楽に話せるような言葉かけをしながらいろいろな経験から自分の考えをしっかりと語る西上さんのたくさんの引き出しにワクワクした楽しい時間でした。参加者からは「人は人の中で育つことを学びました」「自分が主として感じられる時間でした」「人と人の間に生まれる空間こそが安心感で、乳幼児にとってもっとも大事なことだと思った」などたくさんの感想が寄せられました。この学習交流会は、この場だけでは終わらずもっともっとしゃべりたい！気持ちを聞きたい！どう関わり寄り添っていけるか考えたい！と、これからつながるものになりました。それが西上さんの言われた「ちらかす」という意味だったのではないだろうか、それぞれが自分自身のことを深く見つめ大人が心を開くことの大切さも感じました。

長崎県子ども劇場連絡会 〈学習交流企画〉“西上寛樹さんを囲んで…”



◆低学年の部：14:00～16:00 <参加者20名>

20名の参加でまず自己紹介からはじまり、次に低学年の子どもたちと接して思うことを出し合いました。スマートフォンやタブレットを見たがる、YouTubeを見たがる、言葉遣いが悪い、ぼーっとしている時間が無いなど、様々な気になることが出されました。一番多かったのはYouTubeを見たがるということで、参加者は「そうそう」と頷きながら聴いていました。

その後、「スポーツと遊び」「大人の介在する遊び」「YouTubeと生の舞台、映画を観ることの違い」などについて小グループで話し合ってはシェアするというやり方で進みました。「まとめなくていいよ。」とか「無理して言わなくてもいいよ。」と言われて和やかな雰囲気が進みました。その合間合間に、これまでに西上さんが出会ってきた子どもの様子やその時の対応についての話もありました。一方的にお話を聴いて学ぶのではなく、参加者一人一人が感じたこと思っていることを言葉にすることで、気持ちが整理されていきました。そしていつの間にかテーマである“観ること・あそぶこと”に迫っていました。

子ども劇場で目指している子どもの権利条約第31条（休息・余暇、遊び、文化的・芸術的生活への参加）の保障の大切さを考え合う機会となりました。何よりも、集まって顔を合わせ話すことの大切さを実感し、子ども劇場の活動の大切さを再確認できました。

<参加者感想より>

昨今の子育てでは、メディア（特にYouTubeやゲームなど）の普及により、それを切り離して生活することは出来なくなっている。YouTubeと舞台、同じ「観る」でも脳の中で働いている部分が違っていたり、YouTubeなど観るときは首が固まるのに対し、舞台を観る時は自然と体が動き出す。まさにそうだなーと思いました！

我が家には2人小学生がいますが、部活等で子ども自身もそうだし、親子でもゆっくり過ごす時間が過ごせていないなーと焦りを感じることも多く、それが自分の中でも気になっているところで、一緒に何かをしなきゃ、してあげなきゃの考えになりがちでしたが、大人も自分の時間をとりながらゆとりを持って接することで、そこには安心した空気感がながれ子どもも安心して過ごせると聞いて、自分の中でホッと思えました！劇を観ることで心が豊かになるものではなく、その瞬間をみんなでワイワイすることが大切と言う言葉がすごく印象に残りました！子どもと遊んでいる時に子どもの世界に本気が入っていく時の、子どもから出るサインなど見落とさない大人でいたいなーと思いました。（諫早・富永絵理）



◆高学年の部：17:30～19:30 <参加者18名>

高学年の部は、雪で翌日に順延となったため、当初参加予定だった人（主に青年たち）が参加できなくなってしまいとても残念でした。それでも4名の青年が参加してくれました。

元は「火おこし」もできなかった西上さんが、子ども劇場のキャンプで挑戦するのを青年たちが何も言わず2時間も待ってくれたというエピソードから、「なぜ子ども劇場の青年はそんなに待てるのか」という投げかけから始まりました。その問いに青年は「そもそも待っているという感覚ではない」「“できる”という経験をしてきたから、何か求めて来ないかぎりそれを待っている。待つことができる」「してもらってきたから、あたりまえのこととしてやっている」、大人たちからも、「否定をせず待ってくれる仲間の中で待つ力が育っている。」「親はなかなか待てない。第三者の、ななめの関わりがあることの大きさ」などが語られました。

そのあとも西上さんから問いが投げかけられながら、近くの人と話し、またそれを全体でシェアする、という形で進行されました。「学校・社会と子ども劇場との違い、それに対する戸惑いはあったか、どうやって折り合いをつけたか」、「思春期、10代の頃のダイナミックな体験・破壊の衝動はあったか」、「高学年にとっての“観ること、あそぶこと”について」など。

最後に「観ること」について話されました。高学年になると例会に行くことの優先順位が低くなってしまい、行く目的はみんなと会う楽しみだったりします。しかし観た後に話して深め合ったり、自分の感想を話し人の感想を聞いて自分の中に落とし込んだりする（自分を知る）ことや、企画の段階から関わることで例会へ向かう気持ちや迎える主体性がともなうという、高学年だからこその経験もあります。そして創り手としての西上さんの考えも紹介され、10代の子どもたちに向けた作品、高学年例会への期待を持って終わりました。



舞台コーディネイト事業

NPO法人長崎県子ども劇場連絡会は、子どもの権利条約31条(休息、余暇、遊び、文化的・芸術的生活への参加)の実現を目指して活動しています。1人でも多く子どもたちに生の舞台との出会いをつくり、幼児期に文化芸術に心躍る体験を積み重ねてほしいと、幼稚園、保育園、こども園、学童保育、子育て支援センター等に作品を提案して当日までをサポートする舞台コーディネイト事業に取り組んでいます。

「おひさま劇場／ねえ どうさん、だってだってのおばあさん」人形劇団クラルテ 2025年2月14日(金)～27日(木) 13公演



だってだってのおばあさん

今年度は平戸市の3つの保育園が合同で観る公演からスタートし、最終日の諫早の保育園まで13公演を取り組むことができました。

ギターのやわらかい音色の演奏で穏やかな中始まり、細部まで工夫された舞台と細かい仕掛けに、子どもたちの視線はくぎづけ。楽しい場面ではお互いの顔を見合わせたり、手をたたき合ったりして体いっぱい楽しんでいました。悲しい場面ではシーンとなり、「わたしは5歳」というおばあさんに、「僕は3歳」「私は5歳」と手を上げて自分の年齢をアピールしたりと、人形の気持ちと一緒に幸福感を共有できた空間になりました。

部屋を出る時は人形のお見送りがあり、少し離れて観る子ども、触ったり話しかけたりする子どもがいたり、思い思いに人形と触れ合う姿が見られ、みんな笑顔で戻っていきました。

創造団体からは、園と日常的につながりがある子ども劇場のスタッフが居てくれることで安心感があり、集中することができ、沢山の笑顔に出会えた、年齢に応じた反応があり仲間で世界観を共有でき楽しんでもらえて良かった、と感想をもらいました。

いつも一緒にいる友だちや先生、地域の人たちの中で安心して舞台を観られる時をこれからもつくっていきたいと思います。

2/14	金	中部地区青少年健全育成連絡協議会 (平戸市)
2/15	土	わくわくDokiDokiの会(波佐見町)
2/16	日	佐世保子ども劇場(佐世保市)
2/17	月	双葉こども園(佐世保市)
2/18	火	ゆんたくこども園(長崎市) 学童保育北小クラブ(諫早市)
2/20	木	稲佐こども園(長崎市)
2/21	金	つばさ保育園(長崎市)
2/22	土	桜花保育園(島原市)
2/23	日	諫早子ども劇場(諫早市)
2/25	火	有家たちばなこども園(南島原市)
2/26	水	認定こども園 ありあけ幼稚園(島原市)
2/27	木	小野保育園(諫早市)



くまさんのお見送り



ねえ どうさん

第30回長崎県子ども舞台芸術祭典は 7/11～7/31の期間中、県内11市7町で全39日44公演を実施します!!



「にっこりぽっかり座」「あなたがうまれるまで」「へんてこげきじょう」「マイ・クロ・シアター」「やもじろうとはりきち」「サクラがいく!!」

子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名(団体名)	月日(曜)	開演時間	会場	主催
カボとピノ (人形劇団ココン)	5月10日(土)	15:00	メルカつきまちホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
	5月11日(日)	10:30	西諫早公民館(講堂) (諫早市)	諫早子ども劇場
18:00				
トレテックパレード(人形劇団ココン)	5月11日(日)	18:00		
あなたがうまれるまで (人形芝居ひつじのカンパニー)	5月16日(金)	18:30	アルカスSASEBO第2リハーサル室 (佐世保市)	佐世保子ども劇場

**NPO法人
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057
長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 303 号室
TEL: 095-825-0533
FAX: 095-825-6151
E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場
TEL: 0920-44-5010

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO法人長崎県子ども劇場連絡会

★ご意見・ご感想をお寄せください。

★編集後記★

2月の学習交流企画の講師・西上寛樹さんの YouTube@にしがみチャンネルはとても面白く興味深い!! 劇を観ることについてや子どもたちについてご自身の考えを語ってくれる。「僕はこう思いますが、みなさんはどう思っていますか?」と、聞いている私たちにいつも問いかける。考えるきっかけをもらえる。

西上さんは東京で2年間「心の相談員」の経験があるそうだ。私も昨年の6月から小学校で週1回別室支援員をしているが、学校で子どもたちと接していると「どうして学校に来ないといけなの?」「どうして学校で勉強しているのに家で勉強しないといけなの?」と素直に問いかけてくる。お友だちと一緒に楽しく遊びたいと思っているけれど、西上さんのいう自分軸を発揮している元気な子どもたちはなかなかうまくいかない。子どもたちが気持ちを話せるゆったりとした時間が必要だと感じる。まずは自分が受け入れられるという経験の積み重ねが大事なのではないか。“人といることへの安心感”を実感しながら大きくなってほしい。

今年は祭典が30周年を迎え、この4月に再び西上さんに来崎していただくことになっている。劇を通して子どもたちのつながる力、地域で暮らす「安心感」を確認し合いたい! 鹿児島県伊佐市で地域協力隊の経験もある西上さん。長崎の祭典に地域にどんな新しい風をおこしてもらえるのか今から楽しみにしている。(T)

長崎県子ども舞台芸術祭典30周年記念講演会

げき×こども×ちいきの可能性

～考え方を考えるだけで溢れ出てくる
みんなの元気～

2025年
4月29日(火・祝)

13:30～15:30
東彼杵町教育センター研修室

参加費 1,000円
(アーカイブ同額)

講師 ▶ 西上寛樹さん

児童演劇の劇作家、演出家。
鹿児島県伊佐市在住。
シナリオ工房 天邪鬼
元伊佐市地域おこし協力隊



★アーカイブの申込はGoogleフォームで→

団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に 2002 年に N P O 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 4 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています。

子どもに夢を!

たくましく豊かな創造性を!

私たちは子どもの文化を応援します。

長崎ヤクルト株式会社

長崎市樺島町 4 番18号
TEL095-821-8960

社会福祉法人小野保育園

諫早市小野町 676-2
TEL0957-23-0120

**ダイハツチバナ
有限会社 林田車体工業**

〒854-0126 諫早市松里町 288
TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378

ますみクリニック

〒850-0952 長崎市戸町 2 丁目20-57
OKホーム&ガーデン戸町店横 弁慶岩バス停前



古豊歯科医院

長崎市小峰町 3-16
☎ 095-843-4165

**ホテル
WING・ポート長崎**

医療法人 マツオ内科クリニック

〒854-0072 諫早市永昌町43-6

TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220

文明堂総本店

長崎市江戸町 1 番 1 号
TEL 0120-24-0002



雲仙市愛野町乙 5864

☎0120-54-1238
月曜～土曜 受付時間 9:00～16:30

FAX 0956-58-3637
24時間受付(年中無休)